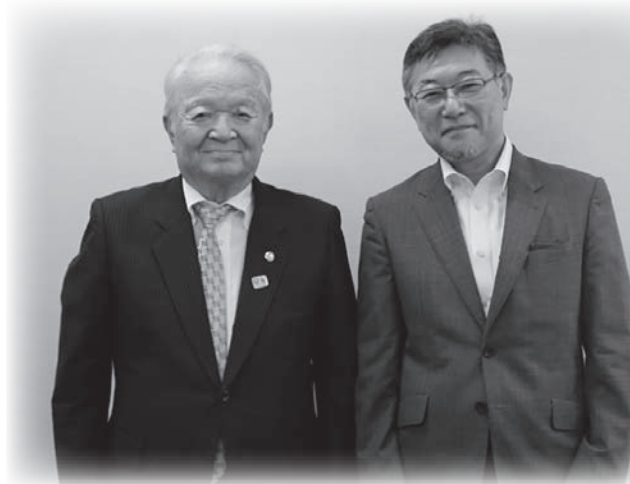




これから手帳を通じて、老人クラブと連携強化中☆



広島県老人クラブ連合会 鈴木 孝雄会長



広島市老人クラブ連合会 高橋 博会長

事務局同士も連携してます!



広島県老人クラブ連合会事務局&本会事務局

県内の老人クラブの勉強会やサロンで、これから手帳は広まっています!



本会非公式フクロウの大福ちゃん
自立の木で暮らしながら、これから手帳を
広める旅をしています。

CONTENTS

- 巻頭言～新役員のご紹介～ P02
- 活動報告 広島市仁保・楠那地域包括支援センター P03
- 学びのページ 広島県訪問看護ステーション協議会 P04
- 私のまわりの輝きさん 紙芝居作家 行政 豊彦さん P05～P06
- 研修報告「現任者研修」..... P07～P09
- 本会からのお知らせ..... P10



広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会 理事 高杉 啓一郎

新年を迎え令和三年となり、早いものでもう三月になりました。私も昨年呉市中央包括支援センター長に就任いたしました。まさにコロナ一色の一年であったように思います。会員の皆様も新型コロナウイルス感染症の対応に色々と苦慮なさることも多いと思います。ひと頃よりは広島県内の感染状況も少しずつ改善してきている印象ではありますが、今後もまだまだ予断を許さない状況です。当センターでも昨年末に勤務スタッフが面談時に濃厚接触となるような事例がありました。幸い当該職員はPCR検査陰性で健康観察期間も問題なく経過し安心しましたが、今後も同様の状況が起こりえるものと考えております。当面は感染予防、特に訪問時の利用者・相談者の方々へのマスク着用等もお願いしつつ業務継続していく方針です。

さて、国内では2月下旬から新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種が開始されております。まずは医療従事者、次に高齢者、基礎疾患を有する人および高齢者施設等で従事されている方の順に接種が行われる見込みとのこと。個人的には介護施設や通所・訪問事業の従事者のワクチン接種も医療従事者同様に早目のタイミングが望ましいと思っておりますが、まだ正式決定ではないようですので、経過を見守りたいと思います。

そのワクチン接種に伴い、昨今マスコミ等でこの新型コロナウイルスワクチンへの不安を煽るような報道もなされているようです。確かに今までの感染症のワクチンと比較して、異例な速さで開発・投与が開始されており、不安の声が上がるのも無理はないかもしれません。ただ、かなり極端な報道も見受けられ、過剰にワクチン接種への恐怖を植え付けるような情報も多く出回っている印象もあります。今回の新型コロナウイルスワクチンについてですが、有効性については各製薬会社により異なりますが、70-95%の感染予防効果が認められたとのこと。また、感染時の重症化予防効果も認められたとのデータもあります。副反応（いわゆる副作用）については痛みや頭痛、発熱や倦怠感が多いようですが重篤なものはないようです。また、ワクチン接種によるアナフィラキシー（急性アレルギー反応）も報告されていますが、適切な処置でいずれも回復したと報告されております。もちろんアレルギー素因や年齢によりアナフィラキシーの頻度は変化してくることはあるかもしれませんが、現在のところワクチン接種にそこまで問題となるようなリスクは少ないのではないかと考えております。

地域包括支援センターに来られる相談者には新型コロナウイルス感染症のハイリスクな方が多くおられます。その方々へのリスクを減らし、地域包括ケアを推進し、地域に必要な支援・地域づくりを継続するためにも、感染予防も含め、正しい情報に基づいた判断をしていく必要があると考えております。

皆様方におかれましても非常にストレスのかかる状況が続いておりますが、感染予防に留意しつつ地域のために頑張ってください。

広島市仁保・楠那地域包括支援センター

仁保・楠那地域包括支援センターが担当している圏域は、広島市南区にある標高 221 メートルの黄金山を中央に裾野一周です。傾斜面に広がる圏域ですので坂道が大半を占めています。南東側は海と河口に面しており土地面積は広くはありません。

3小学校区全 24 町のうち約半分は古くからの集落が続いてきた町で、マンションなどの大型集合住宅は少なく、圏域全体で血縁や地縁が濃く残ります。高齢化率は 30.9%と南区では最も高い圏域となっています（広島市 25.4% 南区 24.8%）。

当センターでは H25 年より地域の皆さまと共に高齢者の見守り活動の拡充に取り組んで参りました。現在はそれぞれの小学校区で見守り活動が基盤となり発展的な取り組みも生まれています。

以下に 3 学区それぞれの活動をご紹介します。

◇楠那学区

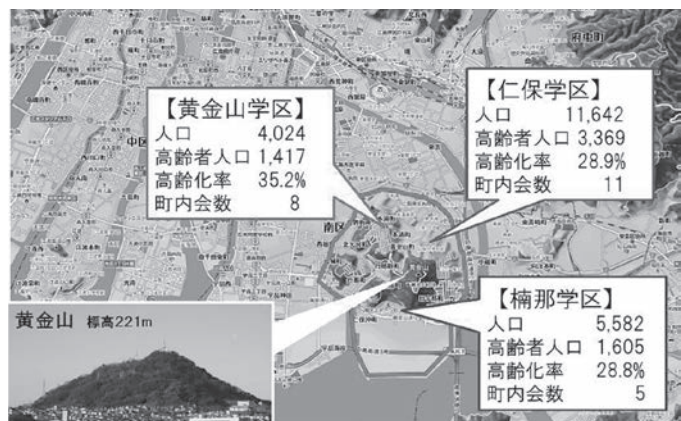
他地区に先行して地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ・老人会の皆さんが協議を重ね、見守り活動のしくみづくりが行われました。学区レベルでの取り決めのもと、町内会ごとにそれぞれの特性に応じた方法で見守り活動を進めています。町内会長と民生委員、近隣の見守り協力員が個別の見守り状況を共有し、地区社協では月に 1 回学区内の高齢者状況や課題を共有していきます。H30 年 7 月の豪雨災害では見守り活動の登録者情報を活用して安否確認を行いました。H30 年からは公民館を交えて認知症等の講座を開催し、学びの場、介護について語り合える場づくりに取り組んでいます。

◇黄金山学区

学区レベルでの取り決めのもと、町内会ごとに町内会長と民生委員、近隣の見守り協力員によって個別の見守り活動が進められています。一人一人の見守り活動に丁寧に関わりながらケースが積み重ねられ、年に数回は役員が集まり学区内の高齢者状況や課題を共有して次年度の活動計画がなされています。毎年、認知症への課題や地域住民の学びの場づくりへの要望が多く上がっており、認知症等の勉強会を開催しています。H30 年からは学区内で認知症徘徊声かけ模擬訓練を実施しています。

◇仁保学区

面で支える見守り、互いに見守り合うことを理念にし、サロン等の集いの場における見守り体制づくりからスタートしました。現在は 400 名を超える方から活動への賛同が得られ登録をいただいています。H29 年からは隣近所のつながりを強めるため「隣家声かけ門前清掃」が加わりました。毎週土曜日の朝 7:30 から時間を合わせて門前清掃を行い「今日もお元気ですね」と声のかけ合いをする活動です。1 回の声かけ門前清掃を行うと、高齢者いきいき活動ポイント事業の 2 ポイントが獲得できるという嬉しいルールもついています。H31 年からは、登録者同士が集い交流する中で自然と支え合い活動が生まれることを目指して、みまもり喫茶が開催されています。



広島県訪問看護ステーション協議会

副会長 近村 美由紀

テーマ 「地域包括ケアへの取り組み」

広島県訪問看護ステーション協議会は、令和2年度、新体制でスタートしました。会長郷力和明（西城市民病院長）、副会長藤井功（福山記念病院理事長）、新たに看護師から副会長を起用、近村が務めさせてもらうことになりました。事務局も西城市民病院へと移りました。令和2年10月現在、広島県内の訪問看護ステーション312事業所のうち、広島県訪問看護ステーション協議会へ175の事業所が加入しています。

平成26年度から3年間、国の新基金（広島県地域医療介護総合確保事業基金）を活用し、県内すべての地域において必要な訪問看護等が提供できる体制の構築を目指して実態調査を行いました。これらの調査をもとに地域包括ケアの中心的な役割を担う訪問看護ステーションの質の向上・機能強化及び訪問看護ゼロ地域の解消を目的に、①日常生活圏域における訪問看護ゼロ地域の解消に向け、サテライト開設等の支援、②二次保健医療圏域毎に訪問看護ステーション連携相談窓口の設置、③管理者の質の向上を図るため、管理者等マネジメント力向上研修会の開催等を実施してきました。

その結果、①3か所のサテライト増設に加え、訪問看護の無い地域には、周辺の訪問看護ステーション等からケア提供があることで日常生活圏域に訪問看護ゼロ地域はなくなりました。②すべての二次保健医療圏域に幹事・副幹事を置き、訪問看護ステーション連携相談窓口設置を平成30年までに完了しました。③管理者等のマネジメント力向上と専門・認定看護師による相談支援事業については、継続して取り組んでいます。

しかし、令和2年度には、コロナ禍の波が駆け巡り、当協議会も活動にはほど遠い状況となりました。

7月に、まず協議会の委員同士がつながるため、Webによる初めての会議を行いました。また9月には新型コロナウイルス感染症が訪問看護に及ぼしている現状と事業所運営への影響等を把握するために実態調査を実施しました。最も多かったのは、新型コロナウイルス感染症への対応が確立していないことで、訪問看護師も不安を抱えてのケアの提供で、メンタルケアの必要性が課題として見えてきました。

県内の訪問看護ステーションは、その数や規模にも地域差があり、中山間や島しょ部では、看護師不足で人員基準の確保に苦慮しながら運営をしている事業所も少なくありません。このようなステーションを孤立させないためにも、当協議会と各訪問看護ステーション同士がつながり、情報交換・情報共有・研修会ができるIT環境の整備と対応可能な知識・技術の習得の必要と考えています。

今後も会長はじめ役員・委員が一丸となりこれらの課題解決に取り組んでまいります。



行政さんは、私たち地域包括支援センターみよしの事務所と同じフロアで三次市福祉保健センターの受付などをされている市の職員さんです。
行政さんは本来の職務のほかに、長年にわたり紙芝居や絵本を作成され、それを自ら演じておられます。

ワクワクする不思議な世界は子どもさんからお年寄りまでみんなを楽しませ、笑顔と元気を届けておられます。

この活動は私たち包括支援センター職員にも大いに刺激になっています。



三次市地域包括支援センター 長谷川 忠弘

第7回の 輝きさんは



紙芝居作家

行政 豊彦さん

■ 紙芝居や絵本を作って 25 年

紙芝居や絵本を作りはじめ 25 年になりました。そのほとんどが市や団体の依頼を受けて作成したものです。そんな中、8年前に当時の地域包括支援センターの啓発担当者と認知症の人と家族の会の代表の方から認知症理解の紙芝居の作成依頼がありました。ちょうど一人暮らしの松江の叔母に認知症の症状が出たタイミングでした。その体験も盛り込み「ちいちゃんが笑った」という紙芝居を作成しました。

現在、三次市役所を定年退職した後、再任用で三次市福祉保健センターの窓口配属され地域包括支援センターの皆さんと同じフロアで一緒に仕事をしていることにご縁を感じています。

■ 認知症理解の絵本「ちいちゃんが笑った」

この物語は、ちいちゃんという小学2年生の女の子と一緒に住んでいるトメおばあちゃんが認知症になり、どうしたらいいかわからなくなるころから始まります。ある日、その家を昔から見ている柿の木の“妖精”「柿の木じいさん」が現れ、「年を取ると誰でも病気になるしやすくなる。おばあちゃんの頭も病気になった」「おばあちゃんは家族のためにすごく頑張ってきた」「記憶はなくなってもちいちゃんの優しさは伝わる」などと諭すストーリーです。絵本化もされ市内に配布していただいています。



紙芝居の一場面

間近に、包括支援センターの皆さんの日々の奮闘を見ていると、介護や認知症の問題は個人の問題と同時に社会全体の問題であること、誰もが例外なくかかわる問題であることがわかります。この紙芝居や絵本が多くの皆さんの認知症理解へのきっかけになればと思っています。(希望団体には 1 冊、着払いでお送りできます…問い合わせは地域包括支援センターみよしまで)

現在、地元歯科医師と連携して「歯の大切さと認知症」をテーマに紙芝居を作成中です。

わたしのまわりの輝きさん

■ 作成すること、そして演じること…ボランティア活動を生きがいとして

昔話や民話、歴史、環境、食育、食料ロス、減塩、税金、禁煙、赤ちゃんはどこからなど様々なテーマの紙芝居や絵本を作ってきました。これらを妻と演じることもまた私のライフワークとなっています。依頼が多いのは小学校や高齢者のサロンなどです。子どもたちには夢を、高齢者の方には元気を届けたいと演じています。多くの皆さんに喜んでいただければこちらも元気になります。

～皆さんに喜んでもらうことを生きがいに～これからも頑張ります！



田舎芝居の一場面



12月7日の三和町中羽出庭で演じている写真



小学校での実演



令和2年度現任者研修会の報告

1. 目的 在宅で生活する高齢者と同居する息子、娘（40歳代から50歳代）が非就労、ひきこもり、何らかの疾患や障害が疑われる言動等から、高齢者本人への支援が難しいケースは、少なくありません。本研修では、コミュニケーションに課題を抱える発達障害、ひきこもりに対する理解を深め、支援機関との連携について学びます。

2. 主催 広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会

3. 日時 令和2年 10月5日(月) 13:30~16:30
〔受付〕13時00分~

4. 会場 広島市南区地域福祉センター（南区役所別館）4階 大会議室
住所 広島市南区皆実町1丁目4-46 TEL 082-254-3416



5. 受講対象（定員50人）

地域包括支援センター・在宅介護支援センター職員として勤務する人（勤務歴1年以上）で、基礎研修（初任者研修）を修了した人

※ お申込みは、先着順となります。

※1センターからおひとりまでの参加とさせていただきます。

6. 内容

	13:30	15:00	:30	16:30	
受付	開会	講義1	講義2	講義3	閉会

講義1 テーマ「ひきこもりの理解、発達障害の理解」

講師 広島県立総合精神保健福祉センター（パレアモア広島）

医師 佐伯 真由美 氏

講義2 テーマ「広島県立総合精神保健福祉センターのひきこもり相談について」

講師 広島県立総合精神保健福祉センター（パレアモア広島）

臨床心理技術職 川村 学子 氏

講義3 テーマ「ひきこもりに関する相談窓口、連携を理解する」

講師 広島ひきこもり相談支援センター 中部・北部センター

公認心理師 前畑 龍 氏

研修会担当委員のコメント

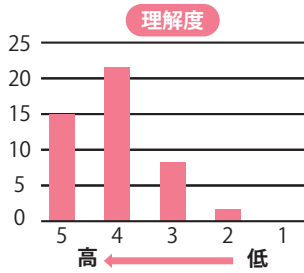
今回はひきこもり、発達障害の基本的な理解と、支援機関の窓口機能や地域包括支援センターとの連携をテーマに開催しました。アンケートで時間が短かった、具体的な支援や連携について学びたい、とご意見をいただきました。ご意見を踏まえて、皆さまの圏域における地域ケア会議や研修会開催の参考になるテーマや内容を企画してまいります。

研修報告

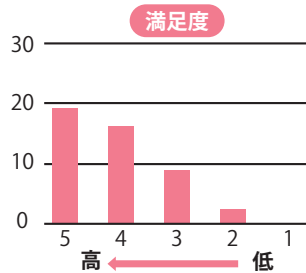
10/5 「現任者研修」参加者アンケート結果

講義1 「ひきこもりの理解，発達障害の理解」

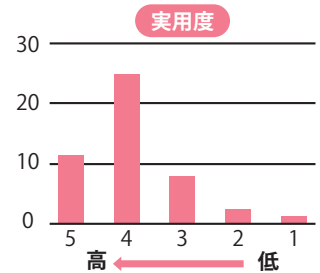
No.	理解度	回答数
5	非常によい	15
4	よい	22
3	普通	8
2	どちらかといえば悪い	1
1	わるい	0
合計		46



No.	満足度	回答数
5	非常によい	19
4	よい	16
3	普通	9
2	どちらかといえば悪い	2
1	わるい	0
合計		46

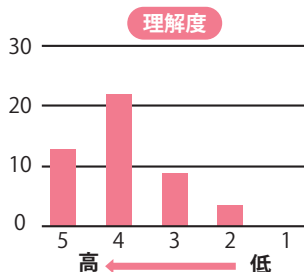


No.	実用度	回答数
5	非常によい	11
4	よい	24
3	普通	8
2	どちらかといえば悪い	2
1	わるい	1
合計		46

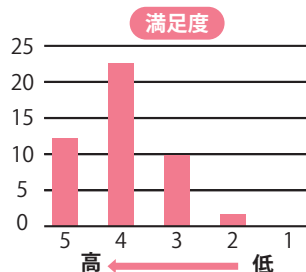


講義2 「広島県立総合精神保健福祉センターひきこもり相談について」

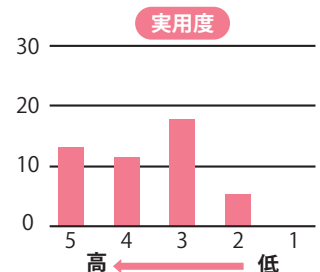
No.	理解度	回答数
5	非常によい	13
4	よい	21
3	普通	9
2	どちらかといえば悪い	3
1	わるい	0
合計		46



No.	満足度	回答数
5	非常によい	12
4	よい	22
3	普通	10
2	どちらかといえば悪い	2
1	わるい	0
合計		46

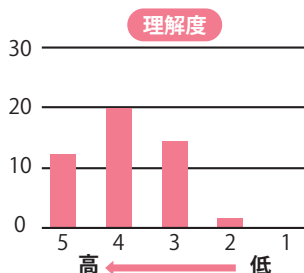


No.	実用度	回答数
5	非常によい	12
4	よい	11
3	普通	18
2	どちらかといえば悪い	5
1	わるい	0
合計		46

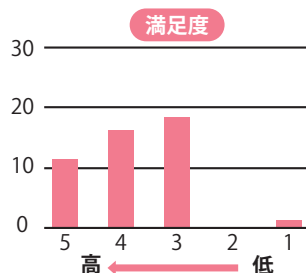


講義3 「ひきこもりに関する相談窓口，連携を理解する」

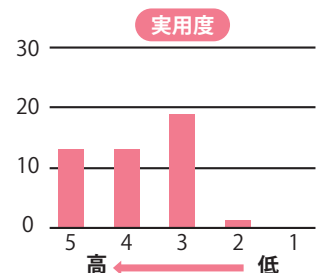
No.	理解度	回答数
5	非常によい	12
4	よい	20
3	普通	13
2	どちらかといえば悪い	1
1	わるい	0
合計		46



No.	満足度	回答数
5	非常によい	11
4	よい	16
3	普通	18
2	どちらかといえば悪い	0
1	わるい	1
合計		46



No.	実用度	回答数
5	非常によい	13
4	よい	13
3	普通	19
2	どちらかといえば悪い	1
1	わるい	0
合計		46



●研修受講者の声をご紹介します!

・ひきこもり、という問題がどのようなもので、どのような支援をされているか理解することができました。しかしその上で、包括支援センターの役割がどのようなものか少し分からなかったです。講義3でつなぎ役と言われましたが、つなぐまでどのように介入したらよいかを日々悩んでいます。

・ひきこもり問題に関しても各関係機関との連携が大切であり、必要だという事が改めて再確認できました。ただ、その連携機関についてが、なかなかどこに関わってもらったらいいか?特に疾患(統合失調症など)が無い方などについては、パレアモアのように明確に相談窓口があまりまだないように思います。複雑なケースも増えてきている中で、専門機関とどうつながりを持ち、連携を図っていくかが包括としても課題であり、包括だけでは関わりきれないケースも増えてきているので、障害、精神などの専門機関も充実してもらえればありがたいです。今日は勉強になりました。ありがとうございました。あと、パレアモアやひきこもり相談支援センターについて、今まであまり詳しく知らなかったので、知る事ができて良かったです。自身の市にもひきこもり相談支援センターのような機関ができてくれたら良いのにと思いました。

・講義2については、非常に時間が短かったことが残念です。8050問題がありながら、相談受理の平均年齢は非常に若く驚きました。その反面、とても良いことだと思い、将来の8050問題が低減していくことを期待しています。しかし、現在悩んでいる、当事者の相談に行かない事に対するアプローチや関わりはどのようにして行けば良いのか?と疑問に感じました。ひきこもり期間が長期化することで改善意欲が低迷していくのも納得です。

・高齢者の支援に入って当分経ってからひきこもりの子どもさんがいることを教えてくれた。実際に訪問しても姿を見ることはなかったため、どのように関わればいいのかわからなかった。しかし、佐伯先生の家族を支援するという事を教えて頂き、高齢者との信頼関係をきずき、少しずつ子どもさんに対するの思いなども確認していこうと思う。また、包括からもひきこもりセンターなどがあるってことを提案することも大事だと思う。

・高齢者を支援する中で、ただひとりの身内が、ひきこもりの方であることもあり、高齢者の支援もさることながら、高齢者の死後に残された場合のことも心配されることが増えています。関係者の連携、情報提供などの重要性や症状の理解など勉強することができました。ありがとうございました。高齢者の家族としてのひきこもり者の存在でなく、共生社会の考え方では、ひきこもり者も包括支援センターの支援対象と気付きました…。

・高齢者支援の際、家族の協力なくしてはできないことも多く、キーパーソンである家族のひきこもり問題は重要です。今後の参考になりました。あちこちにひきこもり相談機関があることがわかりましたが、実際、どこに相談に行ってもよいのかわかりにくいです。市町村の保健所との関わりはどうなのか?ファーストコンタクトはどこなのか。

・ひきこもり支援についてまずは家族を支援していく。「よく相談に来られましたね」と家族をねぎらう、アウトリーチ等の支援も必要、早めの相談、早めの支援にて、改善が早くなるひきこもり評定尺度にて改善に向け支援できているかもわかる。又、問題が複雑で、どこに相談していいかわからない方へ生活困窮者自立相談支援機関がある発達障害、ひきこもりに対する知識を深める事で他職種連携ができ、専門性を持った対応ができる、早期対応する事で介入しやすくなり、改善がみられ行動変容になる事がわかった。高齢者の相談支援で家族にひきこもりの方がおられた場合他職種連携にて支援が必要と思った。

・ひきこもりや家庭内暴力など、1つの現象に目が行きがちだが、最後のプロセスなど、経緯を知れたことで、支援者としてまずは本人、家族の思いを冷静に受け止めることが必要だと思った。本人だけではなく家族にも関心を持ち、相談機関と繋がり合うことで本人たちを面で支えられるようになりたい。

・虐待に繋がっている場合、本人の生命を考えると、ひきこもりや拒否的な子どもの安心感などは優先できず、結果的に、家族の支援としてはいい方向にいかないことがあり、悩むことがある。

・精神障害(ひきこもり、発達障害)の相談支援員さんと連携してはいますが、市場原理を取り入れた介護保険業界と、障害サービス、支援機関の方々との間には専門領域が違うせいか知識や経験、制度運用に対する方法や考え方等が異なることが多く、戸惑います。相互理解を深めたく思います。介護保険サービスは物事が早く進んで行きますが、障害分野はそうではないことを痛感しました。

本会からのお知らせ

本会の令和3年度 委員会・部会員大募集!

研修委員会

広報委員会

在宅介護支援センター部会

委員・部会員として活動を希望される方は、事務局までご連絡ください!

事務局 TEL 082-254-3416

編集後記

これまで、興味のなかった動画やオンライン会議等が仕事&趣味に変わりつつあります。個人的にいろいろ機材を購入して楽しんでいます!..... 荒木 和美

年末からいきなり強い寒波が続き、数年ぶりに雪も積もりましたが、少しずつ暖かい日も出てきて、待ち遠しい春もそこまで来ているようですね。..... 若林 裕旨

梅が見頃を迎えています。落のとうがのぞき始めました。もうすぐ春です。気をつけながら季節を楽しみたいです。..... 藤井 紀子

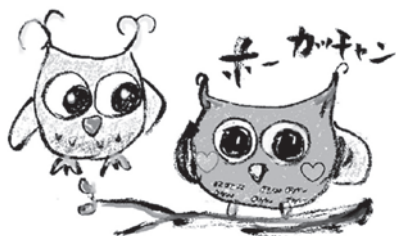
いつまでも「アナログだから」と言うてはおられません。この際に苦手なものを克服する努力を始めたいと思っています。..... 高森 裕実

行政さんが手がける数多くの紙芝居は、テンポあるセリフの掛け合いがとてもおもしろく、日本昔話のような懐かしさもあり大人が観てもワクワクする不思議な劇場です!!

..... 長谷川 忠弘

今年度から広報委員になりました。広島県の包括支援センターの魅力やニュースをしつかり取材し地域のみなさまへ分かりやすくお伝えしてまいります。..... 永見 悠騎

ぼくの友達のホーカッチャンもよろしくホウ!ほかにも、いっしょに地域を盛り上げていく友達がいたら、連絡をお待ちしているホウ! 大福



広島市大州地域生まれの
大福ちゃんのともしち。
コロナの影響で、大福ちゃんと
文通を始めた。

広島県地域包括
在宅介護支援センター協議会
ホームページ

<https://shienkyou.jp/contents/index.php>



QRコードを読み
とってください



広島県地域包括 在宅介護支援センター協議会

検索